

格・省略・共参照タグ付けの基準

河原 大輔 笹野 遼平 萩行 正嗣 黒橋 禎夫 橋田 浩一
京都大学 CARC, AIST

2012年6月11日

目次

1	はじめに	3
2	基本スペックとツール	3
2.1	タグ単位	3
2.2	タグの構成	3
2.3	自動解析	4
2.4	ツール	4
3	格関係	4
3.1	タグを付与する対象	4
3.2	関係名	6
3.2.1	修飾的表現	7
3.2.2	デ格	7
3.2.3	時間	7
3.2.4	無格	8
3.3	格が明示されている格要素	8
3.4	格が明示されていない格要素 (節内)	8
3.4.1	内の関係	9
3.4.2	外の関係	10
3.5	格が明示されていない格要素 (被連体修飾詞)	10
3.6	省略	13
3.7	格関係のタグ付けにおける注意点	13
3.7.1	受身, 使役, ~もらう, ~ほしい	13
3.7.2	可能形の動詞	14
3.7.3	動作主体, 経験者	15
3.7.4	不特定:物	17
3.7.5	不特定:状況	17
3.7.6	サ変名詞	17
3.7.7	(~を)~に	19
3.7.8	~しか~ない, ~以外	19
3.7.9	複合辞	19
4	名詞間の関係	19
4.1	ノ格	19
4.2	ノ?格	22
4.3	修飾格	23
4.4	トイウ格	26
4.5	時間	26
4.6	ほかの格	27

5	共参照	27
5.1	=関係	27
5.1.1	=	27
5.1.2	=構文	29
5.1.3	=役職	31
5.2	≡関係	31
5.3	共参照に関する注意点	32
6	その他注意点	33
7	未解決の問題	42
8	タグ付け例	42
A	品詞	44
B	格の一覧	44
C	修飾語の例	45
D	独立したタグ単位となる接頭辞	45
E	独立したタグ単位となる接尾辞	45
F	メモの記号	45

1 はじめに

文章中の単語・句間の種々の意味関係を明示する際の基準について説明する。ここで考える意味関係は、用言・サ変名詞などに対する格・省略関係、名詞間の関係、および共参照とし、これらの関係をもつ単語・句に対してタグを付与する。

2 基本スペックとツール

2.1 タグ単位

意味関係を考える単位をタグ単位とよぶ。タグ単位は、基本的に自立語1語を核として、その前後に存在する接頭辞、接尾辞、助詞、助動詞などの付属語をまとめたものとする。ただし、意味関係をもっているのは、タグ単位の自立語部分と考える。

以下にタグ単位の例を示す。/で区切られた範囲がタグ単位である。

- (1) 日/米/首脳/会談の/大きな/課題だ。
- (2) クリントン/元/アメリカ/大統領が/講演した。
- (3) 通常/国会/召集/前の/新党/結成を/主張している。

ただし、次の例外がある。

- 「前」「元」などの接頭辞、「率」「者」などの接尾辞は独立したタグ単位として扱う (一覧をD, Eに示す)

- (4) 人口/増加/率は/全国/一位で、/すでに/十万人を/突破したと/される。
(「増加」と「増加率」では、他の要素に対してもつ意味関係が異なる。)

- (5) 今の/ところ/利用/者は/少ない。

※ 従来は、人名の姓名の2つ以上の連続をまとめて1つのタグ単位としていたが、廃止した(2008年8月)。これらはそれぞれを独立したタグ単位として扱う。また、従来は、接尾辞「前」「中」「後」は独立したタグ単位にしていなかったが、独立したタグ単位として扱うようにした(2012年4月)。

以下では、各例において、タグ単位の区切りが明確でない場合のみ / を挿入する。

2.2 タグの構成

次の例の「行った」には「ガ格:太郎」と「ニ格:学校」というタグを付与する。

- (6) 太郎が学校に行った。(ガ格:太郎, ニ格:学校)

タグは、ガ格、ニ格などの関係名と、「太郎」、「学校」など、タグ付け対象が関係をもつ相手側のタグ単位の表記からなる。タグは、基本的には、関係をもっている2つのタグ単位のうち、後に出現したタグ単位に与えられるが、これについてはそれぞれの関係の節で述べる。

2.3 自動解析

タグの一部は自動解析によって付与される。作業によるタグの付与は、自動解析によって与えられているタグの修正と、それ以外のタグの新規追加である。

現在、自動解析で付与しているタグは以下のとおりである。

- 格関係 (省略も含む) のタグ
- 共参照の一部のタグ

同じ表記で出現する要素に対してのみタグを付与

2.4 ツール

タグ付け作業は図1のツールを用いて行う。上部には記事全文、下部左側には現在対象にしている文の構文木が表示されている。対象文の構文木の各行はタグ単位を示しており、そのタグ単位に付与するタグが構文木の右側に記述されている。対象文右側の各列は関係を表し、各セルは (行によって指定された) タグ単位の (列によって指定された) 関係に対するタグを表している。

タグの付与・修正は次の手順で行う。

1. タグを付与、または修正するタグ単位と関係を指定し、それによって決まるセルをクリックする。そのときに出現するメニューから「文節選択」を選ぶ。クリックしたセルは「選択待ち」という表示になる。
2. 関係をもっているタグ単位を文章から選び、クリックする。1の「選択待ち」のセルには、選択したタグ単位の自立語部分が表示される。
3. 2の自立語部分が正しくなければ、そのセルをクリックし、メニューから「文字列編集」を選んで修正する。

3 格関係

格要素とそれが係る用言との間の関係 (格関係) のタグ付けを行う。タグは用言側に付与する。

3.1 タグを付与する対象

タグを付与する対象は、用言および用言に準ずる表現である。

- 動詞
(7) 太郎が学校に 行った。(ガ格:太郎, ニ格:学校)
- 形容詞
(8) この季節になると、桜が美しい。(ガ格:桜)
- 名詞+判定詞

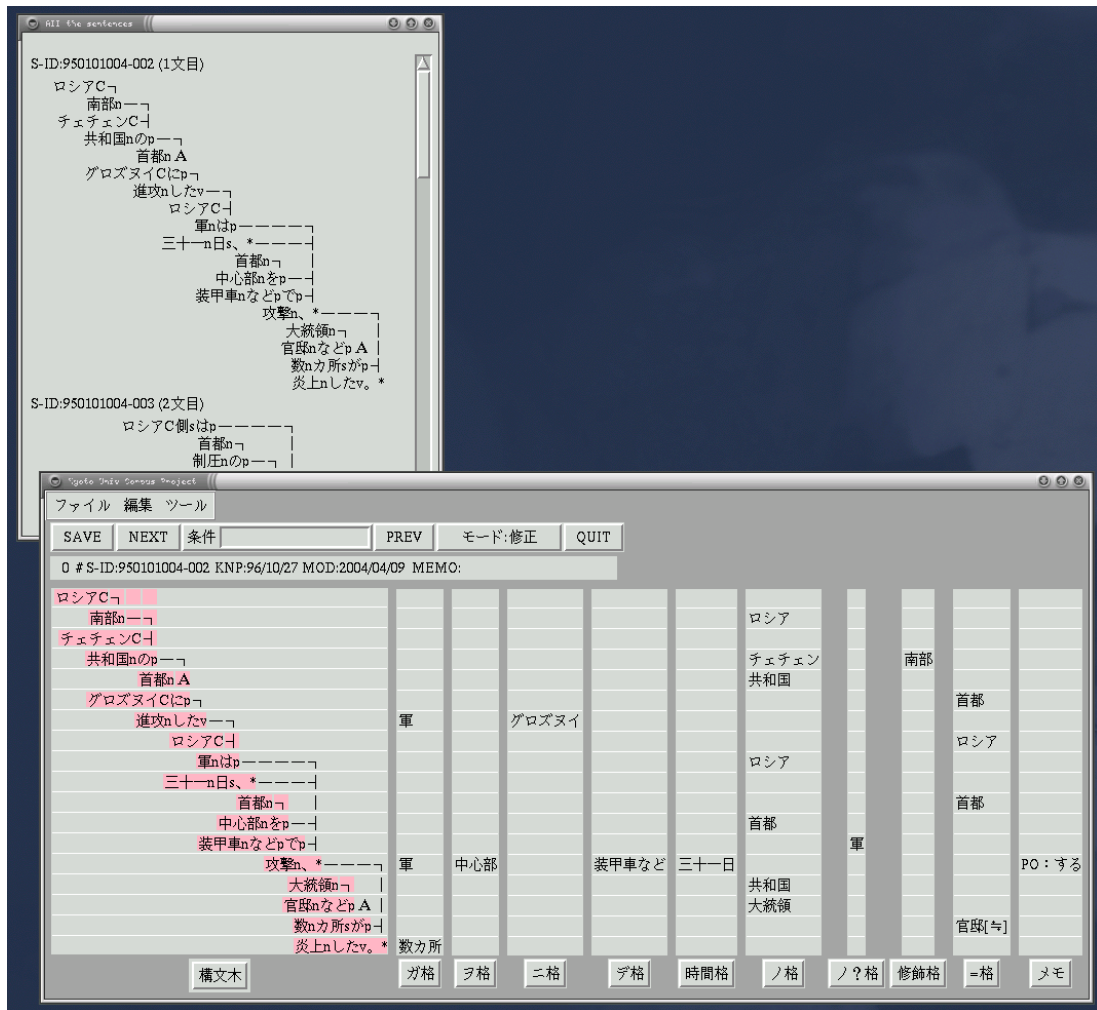


図 1: GUI ツール

- (9) 太郎はまだ 学生だ。(ガ格:太郎)
- サ変名詞
- (10) 彼の大学 合格に両親が喜んだ。(ガ格:彼, ニ格:大学)
- 形容詞語幹
- (11) 今の/政局には/不安定/要因が/かなり/ある。(ガ格:要因)
- 動作的名詞
- (12) ロシア/軍の/戦い/方(ガ格:軍, デ格:方)
- 動作的接頭辞, 接尾辞
- (13) ヨモギ 入りの皮(ガ格:ヨモギ, ニ格:皮)

ただし、次にあげる表現は、用言としての意味が希薄なので対象にしない。

- 複合辞を構成する用言
例: ～という, ～を通じ, ～について, ～における
- 副詞的表現
例: 決して, 近く (「もうすぐ」の意)
- モダリティ表現 (メモ欄に ME (モダリティ表現を示す記号) を記述する)
例: ～ものだ, ～ことだ
(14) 学生は/勉強する/ものだ。 (ME)
(15) 勉強する/ことだ。 (ME)

※ 連体詞にはタグをつけない。

3.2 関係名

格関係の関係名は次の2種類に分けられる。

- 内の関係
 - － 格助詞に対応する格など基本的な格
ガ格, ヲ格, ニ格, ト格, デ格, カラ格, ヨリ格, ヘ格, マデ格, マデニ格, 時間格,
ガ2格
(16) 太郎が/学校に/行った。 (ガ格:太郎, ニ格:学校)
 - － 「～を通じて」、「～として」など複合辞の格 (一覧は付録Bの下部を参照)
「～を通じて」はヲツウジテ格、「～として」はトシテ格という関係名でタグ付けを行う。
(「～を通じた解決」のような連体修飾の複合辞も扱う (4.6節参照))
(17) 太郎が/将来に/ついて/考えている。 (ガ格:太郎, ニツイテ格:将来)
- 外の関係
ガ格, ヲ格, ニ格など内の関係の格では表すことができない関係。関係名は「外の関係」とする。
(18) 政治家が賄賂をもらった 事実 (ガ格:政治家, ヲ格:賄賂, 外の関係:事実)
(19) 長い相撲は足腰に負担がかかる (ガ格:負担, ニ格:足腰, 外の関係:相撲)

以下では、格要素に関する注意点を述べる。

3.2.1 修飾的表現

用言に対して修飾的な表現もタグとして付与するが、任意的要素であることを示すために「なし」タグを[?]モードで付加する(ツールのタグ付与モードを[?]にする)。修飾的表現の例を付録Cに示す。

- (20) 太郎は一人で 立っていた (ガ格:太郎, デ格:一人, なし [?])
(21) 彼女はノンストップで 昇段した (ガ格:彼女, デ格:ノンストップ, なし [?])

3.2.2 デ格

「名詞+で」の「で」には判定詞と格助詞の場合があるので、これを区別する。格助詞と解釈した場合は、基本的に、係り先用言に対してデ格でタグを付与する。「名詞+で」が修飾的表現の場合は3.2.1節のようにタグ付けする。

- (22) その子は紙で汽車を 作った (ガ格:子, ヲ格:汽車, デ格:紙)
(23) その選手ははだしで 走る (ガ格:選手, デ格:はだし)
(24) あの人は独身で 通すつもりらしい (ガ格:人, デ格:独身)

判定詞と解釈した場合は、基本的に、係り先用言に対してデ格でタグを付与しない。その「名詞+で」には格関係を付与する。

- (25) おふくろは三味線の演奏家で、おやじは ギタリストだ (ガ格:おやじ)
(「演奏家で」←ガ格:おふくろ)

ただし、判定詞と解釈した場合でも、その係り先用言とデ格でタグをつける場合がある。

- (26) 太郎は風邪で、昨日学校を 休んだ (ガ格:太郎, ヲ格:学校, デ格:風邪, なし [?], 時間:昨日)
(「風邪で」←ガ格:太郎)

3.2.3 時間

時間表現は、削除しても文の意味が損なわれないときは時間格とし、それ以外の場合は表層に現れている格(ニ格など)とする。

- (27) ロシア軍は三十一日、首都中心部を 攻撃 (ガ格:ロシア軍, ヲ格:首都中心部, 時間:三十一日)
(28) 私は/ホワイト/デーには/クッキーを/焼く (ガ格:私, ヲ格:クッキー, 時間:デー)
(29) 彼ははじめに 決めた 目標を貫いた (ガ格:彼, ヲ格:目標, 時間:はじめ)
(30) その強制収容所がソ連軍の手で解放されて五十年に なる (ガ格:不特定:状況, ニ格:五十年)

カラ格、マデ格、マデニ格、ヨリ格の時間表現の格はそのままの格にする。

- (31) 三時から店が 開く (ガ格:店, カラ格:三時)

(32) 私は三時まで家に 帰る (ガ格:私, ニ格:家, マデニ格:三時)

「～以来」「～以降」などの表現はカラ格としてタグをつける。

(33) 対話は十月以来 行われていない (ガ格:対話, カラ格:十月)

単独の「以来」「以降」などは時間格でタグをつける。

(34) 以来、勧告が 相次いだ (ガ格:勧告, 時間:以来)

(※ 「以来」にはノ格でタグをつける)

「～以来に」「～以降に」という表現はニ格でタグをつける。

(35) 四月のシンガポール会談以来に なる 第2回トップ会談 (ガ格:(トップ) 会談, ニ格:会談以来)

(36) 回目の協議は、首相訪米前の四日以降に なる (ガ格:協議, ニ格:四日以降)

3.2.4 無格

無格はタグとして付与しない。

(37) 彼は改造にお金を一万円 かけた。 (ガ格:彼, ニ格:改造, ヲ格:お金)

(38) 彼は改造に一万円 かけた。 (ガ格:彼, ニ格:改造, ヲ格:一万円)

格関係をもつ格要素を以下で説明する。

3.3 格が明示されている格要素

用言に直接係っている格要素と用言との関係であり、内の関係の関係名に対応する表現 (格助詞、複合辞) が表層的に現れている場合は、その関係名とタグ単位表記をタグとして付与する。

(39) 太郎が学校に 行った。 (ガ格:太郎, ニ格:学校)

3.4 格が明示されていない格要素 (節内)

用言に直接係っている格要素と用言との関係であるが、関係が表層的に表されていない場合は、その関係がどの関係名に当たるかを判定しタグを付与する。「は」や「も」などの提題助詞をもつ格要素、用言に係るノ格の格要素などがある。

3.4.1 内の関係

ガ格、ヲ格、ニ格などの内の関係の格に言いかえられる場合を以下に挙げる。

(40) 訪/中/している/橋本/蔵相は/九日、/李鵬/首相と/会談した。(ガ格:蔵相, ト格:首相)

(41) 同僚も現金を 受け取っていた。(ガ格:同僚, ヲ格:現金)

ガ格の格要素がほかにある場合には「ガ2格」とする(「～は」の場合、「～が」にいいかえることができる, 「ガ2格」については可能形の動詞(3.7.2節)でも同様である)。

※通常、用言と合わさってガ2格の性質を表わすものをガ格とする。

(42) 彼はビールが 飲みたい (ガ格:ビール, ガ2格:彼)

(43) 彼が資格が ある (ガ格:資格, ガ2格:彼)

(44) 長い相撲は足腰に負担が かかる (ガ格:負担, ニ格:足腰, ガ2格:相撲)

(45) 京大は工学部が競争率が 高い。(ガ格:率, ガ2格:工学部)

(46) 彼は頭が 痛い (ガ格:頭, ガ2格:彼)

(「頭」←ノ格:彼)

(47) 象は鼻が 長い (ガ格:鼻, ガ2格:象)

(「鼻」←ノ格:象)

(48) ボンベは口の部分が取り付け部に 残っている だけ。(ガ格:部分, ニ格:部, ガ2格:ボンベ)

(「口」←ノ格:ボンベ)

(49) リンゴは輸入が 解禁された (ガ格:輸入, ガ2格:リンゴ)

(「輸入」←ヲ格:リンゴ(3.7.6節参照))

(50) 情報はコピーが できる (ガ格:コピー, ガ2格:情報)

(「コピー」←ヲ格:情報(3.7.6節参照))

(51) 捕鯨の解禁は当面見込みが なくなった (ガ格:見込み, ガ2格:解禁)

(「見込み」←トイウ格:解禁)

(52) Uターン/ラッシュは、/三日/午後が/ピークと/なった。(ガ格:午後, ト格:ピーク, ガ2格:ラッシュ)

(「ピーク」←ノ格:ラッシュ)

(53) 活動/枠が/スケール・/アップされた (ガ格:スケール, ガ2格:枠)

(「スケール」←ノ格:枠)

(54) 中退/率は/公立よりも/私立が/高い (ガ格:率, ガ2格:私立 ヨリ格:公立)

(55) バランスの/とれた/トマトです (ガ格:バランス, ガ2格:トマト)

「～は」、「～も」など提題助詞をもつ格要素以外にも、「こそ、さえ、まで、の、でも、だけ、だって」などの助詞をもつ格要素は格が明示されていない。その例を以下に挙げる。

(56) 日本は縁のない 欧州と協力する (ガ格:縁, ガ2格:日本, ト格:欧州)

(57) 二人で自動車で富士山に行く。(ガ格:二人, デ格:自動車, ニ格:富士山)

(58) チンパンジーまで人間の言葉を理解する。(ガ格:チンパンジー, ヲ格:言葉)

「～で」、「～から」の格要素は通常、デ格、カラ格であるが、それが動作の主体を表す場合はガ格とする。

(59) 先生には私から伝えます (ガ格:私, ニ格:先生)

(60) あとは私の方でやります (ガ格:方, ヲ格:あと)

(61) デパートでは珍しい催しを計画している (ガ格:デパート, ヲ格:催し)

(文脈によっては「デパート」を場所としてとらえる方が自然な場合がある。その場合はデ格でタグをつける。)

3.4.2 外の関係

「事実」「結果」など内の関係の格では言い換えられない場合は、関係名を「外の関係」とする。

(62) 事実は政治家が賄賂をもらった。(ガ格:家, ヲ格:賄賂, 外の関係:事実)
(「事実」← トイウ格:もらった)

「～は」がその係り先以外のタグ単位と関係をもっていれば、それらのタグも付与する。「～は」が内の関係になる場合については、(42), (43) 参照。以下で用いられているノ格、トイウ格については4節参照。

次の例は、「結果」の内容が「行かなかった」であるので、「結果」に対して「トイウ格:行かなかった」を付与する。

(63) 結果は4割もの人々が投票に行かなかった。(ガ格:人々, ニ格:投票, 外の関係:結果)
(「結果」← トイウ格:行かなかった)

3.5 格が明示されていない格要素 (被連体修飾詞)

● 内の関係

ガ, ヲ, ニ, デ, …格に言い換えられるもの (ノ格は含まない)

(64) 二階で叫ぶ 子供たちを助けようとしていた。(ガ格:子供たち, デ格:二階)

(65) 彼が読んだ 本を借りた。(ガ格:彼, ヲ格:本)

- (66) 料理を 作る 気力もなくなった。(ガ格:不特定:人, ヲ格:料理, デ格:気力)
- (67) 頭が 痛い 彼 (ガ格:頭, ガ2格:彼)
(「頭」←ノ格:彼(4節参照))
- (68) 足腰に負担が かかる 長い相撲 (ガ格:負担, ニ格:足腰, ガ2格:相撲)
- (69) 生徒が 優秀な 先生は楽だ。(ガ格:生徒, ガ2格:先生)
(「生徒」←ノ?格:先生)
- (70) スーパーに 売っている 市販のウナギを用いる (ガ格:ウナギ, ニ格:スーパー)
(※ 「スーパーにうなぎが売っている」とは言えるが、「スーパーにうなぎを売っている」とは言えないため。)
- (71) 勝ち数の 多い 2チーム (ガ格:数, ガ2格:チーム)

※ 内の関係の被連体修飾詞には、次に述べる外の場合とは異なり、連体節の用言に対するタグを付与する必要はない。

付ける場合には、69の場合には、(「先生」←修飾:優秀な)

70の場合には、(「チーム」←修飾:多い)

と付ける。

● 外の関係

被連体修飾詞が内の場合でない場合は、格を「外の関係」とする。

被連体修飾詞は、連体節の用言の「外の関係」以外に、連体節の用言に対してトイウ格、ノ格(4節)などの関係をもつ。以下ではそれぞれについて説明する。

まず、被連体修飾詞が連体節の用言に対して、「という」などの表現で接続できる場合を示す。この場合は、被連体修飾詞のトイウ格に連体節の用言を記述する。

- (72) 犯人が車で 逃走した 可能性が高い。(ガ格:犯人, デ格:車, 外の関係:可能性)
(「可能性」←トイウ格:逃走した)
- (73) 政治家が賄賂を もらった 事実 (ガ格:家, ヲ格:賄賂, 外の関係:事実)
(「事実」←トイウ格:もらった)

次の例は、被連体修飾詞が連体節中の用言に対して相対的關係や因果関係をもつ場合である。被連体修飾詞のノ格に連体節の用言を記述する。

- (74) 花子が旅行に 出かける 前日 (ガ格:花子, ニ格:旅行, 外の関係:前日)
(「前日」←ノ格:出かける … これは、「出かけるの前日」とは言えないが、「出発の前日」と言いかえることができるからである。)
- (75) 兄が 帰国した 翌日、大雪が降った (ガ格:兄, 外の関係:翌日)
(「翌日」←ノ格:帰国した)

(76) 花子が学校を 休んだ 原因 (ガ格:花子, ヲ格:学校, 外の関係:原因)
(「原因」←ノ格:休んだ)

(77) 魚が 焼ける においがする (ガ格:魚, 外の関係:におい)
(「におい」←ノ格:焼ける)

(78) 母は洋服を 買った おつりでコーヒーを飲んだ (ガ格:母, ヲ格:洋服, 外の関係:おつり)
(「おつり」←ノ格:買った)

被連体修飾詞によっては、ノ格、トイウ格のどちらにもなりえるので文脈から判断する必要がある。

(79) 彼が 失敗した 結果は、多くの人を落胆させた (ガ格:彼, 外の関係:結果) (「結果」←トイウ格:失敗した)

(80) 首相と 協議した 結果、そう判断された (ガ格:不特定:人, ト格:首相, 外の関係:結果)
(「結果」←ノ格:協議した, トイウ格:判断された)

「結果」のほかに「目的」も同様にどちらの場合にもなりうる。

被連体修飾詞が連体節中の用言に対して必須的な関係でない場合は、ノ?格や修飾でタグを付与する。どの関係を選択するかは4節参照。

(81) 塩と水を 混ぜた 食塩水を使った (ガ格:不特定:人, ヲ格:水, ト格:塩, 外の関係:(食塩)水)
(「(食塩)水」←修飾:混ぜた)

※ 被連体修飾詞が形式名詞、副詞的名詞で、連体節の用言に対して外の関係をもつときは、被連体修飾詞と連体節の用言間のタグを付与する必要はない。自動で付与されているタグを消す必要もない。

(82) 彼が 仮病を 使ったことは有名だ。 (ガ格:彼, ヲ格:仮病)
(※「こと」に対するノ格、トイウ格も付与しない)

(83) 私が東京に 行く ため、お金を借りる (ガ格:私, ニ格:東京)

(84) 私は海外へ 旅行する とき、着物を持参する。 (ガ格:私, ヘ格:海外)

外の関係の被連体修飾詞の寺村による分類と、それぞれに付与する原則的な関係名を示す。ただし、必ずしもこの関係名にする必要はなく、文脈を考慮して自然な関係名を選ぶ。

- 発話, 思考の名詞 (トイウ格)
話, 決心, 思い, 気, 考え
- 抽象的な「こと」を表す名詞 (トイウ格)
話, 事実, 事, 事件, 騒ぎ, 歴史, 記憶, 夢, 過程, くだり, 可能性, 癖, 習慣, 風習, 運命, 身の上, 過去, 経歴, 商売, 作業, 仕事, 技術
- 感覚, 知覚を表す名詞

- ノ格 - 音, 匂い, 味, 感じ
- トイウ格 - 様子, 姿, 絵, 写真, 場面, 形, 感じ, 感触
- 相対的な概念が考えられるもの, 相対性の名詞 (ノ格)
 - 上, 下, 右, 左, 中, 外, 前, 後, 原因, 理由, 結果 (3.5 もあり), 一方, 一面, ほか, 半面, 反面, すき, 途中, 帰り, 途中, 横, 名残, 最初, 最後, 当日, 翌日, 相手, 同志
- 名詞単独でみると特に相対的とは思えないが, 連体節が「因」、被連体修飾詞が「果」になっているようなもの (ノ格)
 - 悲しみ, 淋しさ, 落ち着かなさ, やましさ, 焦り, 不安, 怒り

3.6 省略

省略されている格とその指示対象のタグ付けも行う。指示対象として、同じ内容を表しているが表現が異なっているものが複数あるときには、構造的にもっとも近いものを選択する。

- (85) 金泳三大統領は…改善を訴えた。金大統領は…ことを指摘。…南北統一の実現を 呼びかけた。
 (ガ格:大統領 (「金大統領」の「大統領」), ヲ格:実現)
 (※ 「金泳三大統領」よりも「金大統領」のほうが「呼びかけた」から近いので、「金大統領」をガ格の指示対象とする。)

以下に、省略タグ付与の例を挙げる。

- (86) 装甲車部隊が大統領官邸付近に進出。同官邸前などで激しい市街戦を 展開している。(ガ格:部隊, ヲ格:戦, デ格:官邸前など)
- (87) 「世界貿易機関」が一日スタートする。…紛争処理機能を備えた新組織へ 生まれ変わる。(ガ格:機関, ヘ格:組織)

3.7 格関係のタグ付けにおける注意点

以下に格関係のタグ付けにおける注意点を挙げる。

3.7.1 受身, 使役, ～もらう, ～ほしい

用言が、受身、使役、「～もらう」、「～ほしい」などの場合、格要素は格交替を起こす。文中の表現そのままに対して、付与するタグを考える。

- (88) 太郎が花子に 起こされた (ガ格:太郎, ニ格:花子)
- (89) 太郎が花子に電話を かけさせる (ガ格:太郎, ヲ格:電話, ニ格:花子)
- (90) 彼には一年ぐらいは 続けてもらう のがいいと思う (ガ格:一人称, ニ格:彼)

受身・使役の用言の動作主体(もとの用言で考えたとき)が省略されているときは、二格でタグ付けする。

(91) 子どもがうるさくて、母親は起こされた。(ガ格:母親, 二格:子ども)

受身・使役の用言の動作主体(もとの用言で考えたとき)とほかの格要素の格が重なる場合など、動作主体がどれであるか区別できなくなる場合は、メモ欄に記号 AG で動作主体を記述する。

(92) 太郎が花子に先生に電話をかけさせる(ガ格:太郎, ヲ格:電話, 二格:花子, 先生 AG:花子)
(※ 電話をかけたのは「花子」なので、動作主体は「花子」であり、メモ欄に「AG:花子」とかく。)

(93) ご夫妻は二女に「思いやりがある女の子に育てほしい」と願っている。(ガ格:夫妻, 二格:女の子, 二女, AG:二女)

3.7.2 可能形の動詞

基準として、可能形の動詞の対象(目的語)の格はヲ格、動作主体の格はガ格とするが、もっとも自然な格を選択する。

(94) シナリオの読める 首脳が目を通した。(ガ格:首脳, ヲ格:シナリオ)

(95) 彼は「まだ1日に30枚は書ける」と言っている。(ガ格:彼, ヲ格:30枚)

(96) 氏の名著も文庫で手軽に読める。(ガ格:不特定:人, ヲ格:名著, デ格:文庫)

目的語の表層格がガ格になっている場合などには、その格を別の格に変えることはしない。ガ格がすでに使われている場合の動作主体の格はガ2格とする。

(97) 彼女は日本語の説明書が読めない。(ガ格:説明書, ガ2格:彼女)

(98) 斉藤さんは「大統領の気持ちが読める」といった。(ガ格:気持ち, ガ2格:斉藤)

(99) チンパンジーは人間の言葉が理解できる。(ガ格:言葉, ガ2格:チンパンジー)

(100) チンパンジーには人間の言葉が理解できる。(ガ格:言葉, 二格:チンパンジー)

(101) チンパンジーは人間の言葉も理解できる。(ガ格:チンパンジー, ヲ格:言葉)

「好きだ」のようなナ形容詞についても、可能形の動詞と同様である。

(102) 花子はラーメンも好きだ。(ガ格:ラーメン, ガ2格:花子)

(103) 花子はラーメンを好きだ。(ガ格:花子, ヲ格:ラーメン)

3.7.3 動作主体, 経験者

自発、受身、知覚の用言で二格をとるものの二格を経験者、それ以外の用言のガ格を動作主体と呼ぶ

著者

引用文を受ける用言などで、動作主体、経験者が著者の場合は「著者」というタグを付与する。

- 「思う 思える 思われる 考えられる」など著者の意見を表す用言の動作主体、経験者「思う 思える」はガ格、「思われる 考えられる」は二格でタグ付けする。

(104) 制度改革が必要な時期にきていると 思う。(ガ格:著者, ト格:くる)

(105) 人の役に立つことを最高の生きがいと 思える。(ガ格:著者, ヲ格:こと, ト格:生きがい)

(106) これも妥当な考えと 思われる。(ガ格:これ, 二格:著者, ト格:考え) (※自発)

(107) 理由は幾つか 考えられる。(ガ格:理由, 二格:著者) (※自発)

- 上の用言以外でも動作主体が著者である場合

(108) 日米韓三国の協力体制を高く 評価したい。(ガ格:著者, ヲ格:体制)

(109) 回答を年代別に 集計してみた。(ガ格:著者, ヲ格:回答)

※ 直接話法中の用言のガ格は「著者」ではなく、間接話法に変換したときの指示対象をタグ付けする。

(110) 今井さんが受賞の喜びを語った。「名誉ある賞をいただき 感無量です。」(ガ格:今井)

読者

命令文の動作主体などには「読者」というタグを付与する。

(111) その後に春菊を ゆがいてください (ガ格:読者, ヲ格:春菊, 時間:後)

(112) 私にその役を やらせてください (ガ格:読者, ヲ格:役, 二格:私)

不特定:人

動作主体、経験者が不特定の人々の場合は「不特定:人」というタグを付与する

- 「いう 言える いえる」のガ格

(113) 住宅金融専門会社を、国民の税金で救済すると いう。(ガ格:不特定:人, ト格:救済)

(114) 用途を限った専用計算機としても、世界最速だと いう。(ガ格:不特定:人, ト格:最速)

(115) 核兵器の廃絶に向けての努力こそが科学者の最大の責務と 言える。(ガ格:不特定:人, ト格:責務)

「～によると」などによってガ格に当たるものが明確に存在すれば、それをガ格として付与する。

(116) 関係者によると、1週間は投球練習をしないだろうと いう。(ガ格:者, ト格:しない)

「~によると」などを受ける表現がなければ、「~によると」のタグは付与しない。

(117) 文部省によると、「その他」には親の無関心が含まれる(※「含まれる」には「文部省」のタグをつけない)

● 「言われる 見える 見られる 聞こえる」の二格

(118) 大学の現状は、教育面ではレジャーランドと いわれる。(二格:不特定:人, ト格:レジャーランド)

(119) 数字の上では軍縮が進んだように 見える。(二格:不特定:人) (※自発)

(120) 連鎖反的にオゾン層を破壊し続けると みられる。(二格:不特定:人, ト格:続ける)

(121) 首相側近から、こんな嘆きが 聞こえる。(ガ格:嘆き, 二格:不特定:人, カラ格:側近)
(※自発)

● 自発、受身、可能(区別は曖昧である)の二格(サ変名詞のガ格も同じ傾向があるが、それについては後述する)

※「~(ら)れる」の場合に、自発か可能の場合はメモ欄に記述しておく。受身はデフォルトと考え、メモしなくてよい。

(122) 好記録の誕生が 期待される。(ガ格:誕生, 二格:不特定:人) (※自発?)

(123) 競技艇の大きさは、大別すると5つの時代に 分けられる。(ガ格:大きさ, 二格:時代, 二格:不特定:人) (※可能?)

● その他

(124) 実用化に必要な放送方式を 決定する ため、実験が始まる。(ガ格:不特定:人, ヲ格:方式)

(125) 出生数から死亡数を 引いた 自然増加数も対前年比でアップした。(ガ格:不特定:人, カラ格:(出生)数, ヲ格:(死亡)数, 外の関係:(自然増加)数)

※ 不特定:人を区別する必要がある場合には、「不特定:人1」「不特定:人2」のように番号を付与して区別する。後に述べる「不特定:物」「不特定:状況」でも同様とする。

(126) 手術 には危険がともなう。(ガ格:不特定:人1, ヲ格:不特定:人2)

※ 指示対象が文脈上まだ出現していない場合は、「不特定:人1」「不特定:人2」などでタグをつけておき、出現した時点で「不特定:人1」などを=でタグをつける。後に述べる「不特定:物」「不特定:状況」でも同様とする。

(127) 5歳の子供の 殺人 が起こった。容疑者は… (ガ格:不特定:人1, ヲ格:子供)
(※「者」← =:不特定:人1)

3.7.4 不特定:物

不特定の物をとる格がある場合には「不特定:物」というタグを与える。

- (128) この価格で 販売され ていることを保証するものではありません。(ガ格:不特定:物, デ格:価格)
- (129) 学ぶ ことは美しい。(ガ格:不特定:人, ヲ各:不特定:物)
- (130) 作品が 載せられています。(ガ格:作品, ニ格:不特定:物)

3.7.5 不特定:状況

「～年になる」のように、ガ格が時期、時間、状況などを表している場合は「不特定:状況」というタグを与える

- (131) 解放されて五十年に なる。(ガ格:不特定:状況, ニ格:五十年)
- (132) 韓国側から具体的な提案がある 予定。(ガ格:不特定:状況)
- (133) 二人の/大統領が/逮捕された/ことになる。(ガ格:不特定:状況, ニ格:こと)
- (134) 暫定/政府が/数カ月以内に/誕生する/見通しとなる。(ガ格:不特定:状況, ト格:見通し)
- 「(~すれば) 結構」「(~すれば) 大丈夫」のような表現のガ格も「不特定:状況」とする。
- (135) 3分間ゆでれば 大丈夫です (ガ格:不特定:状況)
- (136) 治療に何回も かかり (ガ格:不特定:状況, 修飾:何回)

3.7.6 サ変名詞

文中で用言として用いられているものだけでなく、サ変名詞についてもタグを付与する。

- サ変名詞が動作的である場合は、用言と同様にガ, ヲ, ニ, ト, …格のタグを付与する
- (137) ロシア側は首都 制圧 の最終段階に入った。(ガ格:ロシア側, ヲ格:首都)
- (138) 日本電気は、「日→英」「英→日」双方向に翻訳できるシステムの 開発 に世界で初めて成功した。(ガ格:日本電気, ヲ格:システム)
- (139) 弁護士会が、地元検察庁と 協議 を進める。(ガ格:会, ト格:検察庁)
- (140) 金書記は権力 継承 に問題があるわけではないことをアピールした。(ガ格:書記, ヲ格:権力)

以下の例では、動作主体が明確に現れていないので、ガ格が「不特定:人」になる。

- (141) インフレ再燃 防止 と財政赤字削減を柱としている。(ガ格:不特定:人, ヲ格:再燃)
(「再燃」 ← ガ格:インフレ)

(142) 空港整備の 転換 期に当たって、私たちの考え方を述べておく。(ガ格:不特定:人, ヲ格:整備)

(143) メコン流域の 開発 は、メコン委員会で計画されたのが最初。(ガ格:不特定:人, ヲ格:流域)
(※ 動作主体が明確な場合は (138) 参照)

(144) 財政赤字 削減 を柱とし、経済成長を自ら抑える荒療治。(ガ格:不特定:人, ヲ格:赤字)

● 動作的な意味が少なく、動作の結果、内容を表しているサ変名詞には、もとの用言の主格に相当する表現にはガ格、内容を表す表現にはトイウ格のタグを付与する。これらはヲ格の指示対象をもたないので、ヲ格のタグは記述しない(従来は、「ヲ格:例外:なし」というタグを付与していた。)

(145) 二十万円以下の罰金に処するという 規定 がある。(ガ格:不特定:人, トイウ格:処する)

(146) イランに逃走せよとの 命令 を受けた。(ガ格:不特定:人, トイウ格:逃亡せよ)

(147) 日本国籍がない人の任用を禁じる 規定 はない。(ガ格:不特定:人, トイウ格:禁じる)
(※ 「～を禁じるという規定」のように補うことができる)

(148) 米国のこれまでの 主張 は先進国重視だ。(ガ格:米国, トイウ格:重視)
(※ 「～先進国重視という主張」のように補うことができる)

(149) カール・ルイスの世界 記録 を更新した。(ガ格:カール・ルイス)
(※ 「9秒86」などという記録の内容が文中にあれば、それをトイウ格とする)

(150) GHQは矢継ぎ早に民主化を行うための 指令 を発したが、婦人参政権もその一つ。(ガ格:GHQ)

(151) 横尾さんは、マナーリズムを打破する 表現 を追及しつづけた。(ガ格:横尾)

● サ変名詞を含む複合名詞内の要素間を外の関係でタグ付けする場合がある。これは連体修飾と同様に扱う。

(152) 合成/皮 (外の関係:皮),
(「皮」 ← 修飾:合成)

(153) 従業員/減少/会社が/過半数を/占める (ガ格:従業員, ガ2格:会社)
(「会社」 ← 修飾:減少)

(154) 企業が/人員/削減/計画を/実施する (ガ格:企業, ヲ格:人員, 外の関係:計画)
(「計画」 ← ガ格:企業, ヲ格:削減)

(155) 激減の一途だったワニの数が 保護 政策などで著しい回復を見せてきた。(ガ格:不特定:人, ヲ格:ワニ, 外の関係:政策)

※ 同じ複合名詞が後の文脈で出現したときは、主辞(最後のタグ単位)を=で結べば、複合名詞内部のタグをつける必要はない。

● 動作的ではないサ変名詞や、固有表現の一部である場合は対象外とする

(156) 個人 総合 は120人に出場権が与えられる。(対象外)

(157) 公文書は毎日 放送 が入手したもの。(対象外)

3.7.7 (～を)～に

「(～を)～にして」を意味する「(～を)～に」という表現には、「～に」に対して、「～を」をヲ格でタグ付けし(自動で付与されている)、ガ格には指示対象がなければタグを付与しない。

(158) 彼はこの祭りを 契機 にタイの農村を訪れた。(ヲ格:祭り)

3.7.8 ～しか～ない, ～以外

(159) 彼しか 発表しない (ガ格:彼)

実際の意味と逆になるが、タグとしては「彼が 発表しない」とつける。

(160) 彼が/やるしか/ない (ガ格:やる)

(161) 手紙は十世帯以外には 届いている (ガ格:手紙, 二格:十世帯)

3.7.9 複合辞

複合辞をもつ表現が慣用的であれば、(17)のように格として扱う。扱う複合辞は、Bの下部を参照のこと。

以下の例では、文脈によって慣用的であるかどうか異なる。

(162) 規則にそって 行動する (ニソツテ格:規則)

(163) 海岸にそって 北上する

(「そって」 ← 二格:海岸)

(※ 「そう」のもとの意味が残っているので、複合辞の格を用いない)

4 名詞間の関係

名詞間の関係のついてタグ付けを行う。基本的には、ノ格、ノ?格、修飾格、トイウ格の4つの格を用いてタグを付与する。

4.1 ノ格

「AのB」「A…B」とあったとき、Aという情報がBにとって必須的な場合にノ格のタグを付与する(必須的な情報が複数ある場合はノ格のタグを複数付与してよい)。この際、AによってBが特定されているかどうかよりも、Bにとって必須的かどうかを重視する。「(太郎の)妹」のような関係名詞や、「(ボンベの)口」などがこれに該当する。

(164) 米国の 大統領 (ノ格:米国)

(165) 日本の 首都 (ノ格:日本)

(166) 太郎の 妹 (ノ格:太郎)

- (167) 政府の 見解 (ノ格:政府)
- (168) 首相の 政権 (ノ格:首相)
- (169) 首相の 内閣 (ノ格:首相)
- (170) 柔道の 記録 (ノ格:柔道)
- (171) 経営の トップ (ノ格:経営)
- (172) 物理の 先生 (ノ格:物理)
- (173) ロシア 軍 (ノ格:ロシア)
- (174) マヤ 文明 (ノ格:マヤ)
- (175) 世界 地図 (ノ格:世界)
- (176) サッカー/大会 (ノ格:サッカー)
- (177) 生活 大国 (ノ格:生活)
- (178) モロッコ/大使館 (ノ格:モロッコ)
- (179) リンゴの輸入が解禁され、価格 は… (ノ格:リンゴ)
- (180) 東名/高速/道の沼津/インター (ノ格:道)
- (181) ロシアの 南部 (ノ格:ロシア)
- (182) 新宿駅で…。南口 で待ち合わせし… (ノ格:駅)
- (183) アテネ/五輪 (ノ格:アテネ)
- (184) メキシコ/債 (ノ格:メキシコ)
- (185) 英/独/両/政府 は… (ノ格:英, 独 [and])
- (186) 健が家 に帰って見たら (ノ格:健)
ドア が開いていた。 (ノ格:家)
- (187) ボンベは 口 の部分が取り付け部に残っているだけ (ノ格:ボンベ)
(「部分」 ← =:口)
- (188) 専門学校 生 (ノ格:=学校)

数量に対しては、それが何の数量であるのかをノ格でタグ付けする。

- (189) ロシア軍の戦車 五十両 を破壊した (ノ格:戦車)
(「破壊した」 ← ヲ格:五十両)

※ 後から指すときは、それから見て近い方(後側)の表現を用いる。上の例の場合は、「戦車」ではなく「五十両」を用いる。

- (190) 主要企業 100社 の 社長 (ノ格:100社)
 (「100社」←ノ格:企業)
- (191) 平均/風速/10メートル (ノ格:風速, 修飾:平均)
- (192) ガス/会社の/3社 (ノ格:会社)
- (193) 東欧/四カ国 がNATOに加入していない。ハンガリーは… (ノ格:東欧)
 (「ハンガリー」←ノ?格:東欧, ≡:四カ国)
- (194) 被害が/大皿/2枚。(ノ格:大皿, ガ格:被害, CO)
- (195) 男性 400人 (ノ格:男性)
- (196) 試合の/三日目 (ノ格:試合)
- (197) ビールはおいしい。3本 飲んだ。(ノ格:ビール, 「飲んだ」←ヲ格:3本)
- (198) 生徒 10人 (ノ格:生徒)
- (199) 週休 2日 (ノ格:週休)
 「各社」「各国」「全員」も数量と同様に扱う。
- (200) ガス/会社/各社 (ノ格:会社)
- (201) 欧州/各国 (ノ格:各国)
- (202) チームの 全員 (ノ格:チーム)
 既出の時間の一部を表す表現にはノ格を付与する。
- (203) 10月に入って寒くなった。22日 は… (ノ格:10月)
 ※ (416) も同様
 必須的な時間表現はノ格でタグを付与する。
- (204) 1995年の えと (ノ格:1995年)
- (205) 創建/千四百年/祭 (ノ格:千四百年)
 (「千四百年」←カラ格:創建)
 ただし、「四日/朝」, 「昨年/六月」, 「今月/中旬」, 「今月/七日」, 「元旦の/朝」, 「82年/当時」, 「1994年/時点」のように時間が連続して出現しているものに対してはタグを付与しない。
- (206) 3月 26日 に新路線を開設することを運輸省に申請した
 名詞化した形容詞は、名詞を用言的に捉え、ノ格ではなくガ格、ヲ格などを付与する。
- (207) わが社の製品は他社とあまり 違い がない (ガ格:製品, ト格:他社 NO:ト格:製品)
 この例では、「違い」を「違う」と解釈してタグを付ける。また、「違い」はわが社の製品と他社の製品の間の違いであるので、「ト格:他社」のタグの他に「NO:ト格:製品」をメモ欄に記述する。NOに関する詳細は、(439)~(441)を参照のこと。
- (208) 海辺の 近く のレストラン (ガ格:レストラン, ニ格:海辺)
- (209) 海辺の 近く に住む (ガ格:不特定:物, ニ格:海辺)

4.2 ノ?格

「AのB」「A…B」とあったとき、AとBに関係はあるもののAがBにとって必須的とはいえない場合はノ?格のタグを付与する。所有の情報は基本的に必須的ではないのでノ?格となる。

- (210) 花子の眼鏡 (ノ?格:花子)
- (211) ルアンダ紙幣 (ノ?格:ルアンダ)
- (212) 東名/高速/道/大和/トンネル (ノ?格:道)
- (213) 経済/ジャーナリスト (ノ?格:経済)
- (214) 彼の/平泳ぎ/世界/記録 (ノ?格:世界, 彼 [and], ノ格:平泳ぎ)
- (215) 100メートル/ラップの/自己/ベスト (ノ?格:自己, ノ格:ラップ)
- (216) 軍の行動は第一段階の基本課題が遂行され… (ノ?格:第一, ノ格:行動)
(「課題」←ノ格:行動, ノ?格:軍, 修飾:基本, 段階 [and])
- (217) 首都/制圧の/最終/段階に/入った (ノ?格:最終, ノ格:制圧)
(※「最終」は時間格や修飾でも可)
- (218) 日本/語の/ひらがな (ノ?格:語)
(「語」←ノ?格:日本)
- (219) 十二社中/七社 (ノ?格:十二社)
(※数量のタグ付けは(267)～(270)を参照)
- (220) 通常/国会 (ノ?格:通常)
(※日本の国会は通常国会、臨時国会、特別国会のいずれかなので修飾でなくノ?格とする)
- (221) 野球の/球団 (ノ?格:野球)

必須性の強くない場所は基本的にノ?格とする (cf. ノ格:(182), (183), 修飾格:(262)～(266))。
- (222) インド人 (ノ?格:インド)
- (223) 東京都/北区の/公園 (ノ?格:北区)
- (224) 大阪/近鉄/バファローズ (ノ?格:大阪)
- (225) 地元のラジオ局 (ノ?格:地元, ノ格:ラジオ)
- (226) 広場の/椅子 (ノ?格:広場)
- (227) 西側 外交官 (ノ?格:西側)
(※「外交官」に対して「西側」が必須であるかは微妙であるのでノ?格とする cf. (263))
- (228) 長野県の 大町 署 (ノ?格:長野県)
(「署」←ノ格:大町)

以下のような場所の連続は、必須性は強くないのでノ?格でタグを付与する。大地域 → 中地域 → 小地域と推移的にタグを付与する。

(229) 東京都 文京区 本郷 (ノ?格:東京都)

(230) 東京都文京区 本郷 (ノ?格:文京区)
(※ 「ノ?格:東京都」はつけない)

ワインにおける生産地情報のように重要とも考えられる情報は修飾でなくノ?格とする

(231) フランスの/ワイン (ノ?格:フランス)

固有表現を構成するタグ単位間にはタグを付与しない。

(232) チェチェン 共和国

(233) 関東 地方

(234) 中央 アルプス

位置関係を示す定型的な表現を以下に挙げる。

(235) エルサレムの南 約二十キロ のエフラート (ガ格:エフラート, カラ格:エルサレム, ヘ格:南)
(※ 「エルサレムから南へ約二十キロであるエフラート」とみなしてタグをつける。)

(236) 香港-(P)/台北間の/航空/路線 (トイウ格:香港, 台北 [and], ノ格:航空)
(※ このような「間」は無視する, 例外:(460))

4.3 修飾格

補足的な場所や容姿、色など修飾的信息である場合は、修飾格でタグを付与する。

(237) 高齢の 首相 (修飾:高齢)

(238) 女性の 首相 (修飾:女性)

(239) 彼は赤色の 服 を買った (修飾:赤色)

(240) 美人の 彼女 (修飾:美人)

(241) 木造の 建物 (修飾:木造)

(242) みかけ/上の/理由 (修飾:上)

(243) プロ 野球 (修飾:プロ)

(244) 資料的 価値 (修飾:資料的)

(245) 自宅 マンション (修飾:自宅)

(246) シリーズ 番組 (修飾:シリーズ)

- (247) 延べ/床面積 (修飾:延べ)
- (248) どっしりした門構えの邸宅 (修飾:門構え)
- (249) 国際 金融 (修飾:国際)
- (250) 鉄筋 三階建て (修飾:鉄筋)
- (251) 女性 誌 (修飾:女性)
- (252) 女性 服 (修飾:女性)
- (253) 現行/法令 (修飾:現行)
- (254) 華燭の 典 (修飾:華燭)
- (255) 舞台の 曲 (修飾:舞台)
- (256) サンタクロースの/服装 (修飾:サンタクロース)
- (257) 首都圏の18才～69才の 男性 (修飾:首都圏, 69才 [and])
- (258) 米は、/合計/360万トンが/… (修飾:合計, ノ格:米)
- (259) 虫歯については、/平均/6本… (修飾:平均, ノ格:虫歯) ※ (191) と同様
- (260) ガス/会社/全国 3万社 (修飾:全国, ノ格:会社)
- (261) 一人当たり/250円 (修飾:一人当たり)
- (262) パリのアメリカ/人 (修飾:パリ, ノ?格:アメリカ)
- (263) 西側の 竹やぶ (修飾:西側) ※ cf. (227)

次の2つの例の「アテネ」「大阪」のような開催地情報は場所的な意味が弱いので修飾格でタグ付けを行う。

- (264) 大阪の 学会 に行きます (修飾:大阪)
- (265) 第3回/アテネ/大会 (修飾:第3回, アテネ)

住所は修飾格とする。

- (266) 東村山市の/20歳、/石川さん (修飾:東村山市, 20歳 [and])

数量は、基本的に修飾格でタグを付与する (cf. ノ?格:(219))。

- (267) 訪れたカップルに3つの 特典 がある (修飾:3つ)
- (268) 第3/試合 (修飾:第3)
- (269) 五百人の/お客 の/列 (修飾:五百人)
(「列」 ← ノ格:お客)

(270) 100円の飴玉 (修飾:100円)

「肩書+固有表現」などの同格的な表現に対しては修飾格でタグを付与する。(実際には、修飾格に加えて共参照(構文)タグも付与する。共参照(構文)タグについては5.1.2節を参照。)

(271) 首相、/小泉が (修飾:首相)

(272) 米/大統領・/クリントン (修飾:大統領) ※ cf. (358)

(273) 共産党は機関紙「赤旗」で、… (修飾:機関紙)

(274) チームの/切り札/F B/森島 (修飾:F B)
(「F B」←修飾:切り札)

ノ格の同格的表現も同様に扱う。

(275) 会社員の鈴木さん (修飾:会社員)

(276) ガス会社 A社 (修飾:会社)

(277) 師匠の/友綱/親方 (修飾:師匠)

「形容詞語幹+名詞」には、形容詞語幹が形容詞的用法の場合のみ形容詞語幹にガ格などのタグをつける。形容詞語幹にタグ付けた場合には名詞に対しては、形容詞語幹との関係をノ格・修飾格などで付与する必要はない。

(278) 高級 食材 (ガ格:食材)

(279) 不安定 要素 (ガ格:要素)

形容詞語幹にタグ付けしない場合には名詞側にタグを付与する(連体修飾と同様)。

(280) 完璧 主義 (トイウ格:完璧)

(281) 柔軟 体操 (ニカンスル格:柔軟)

(282) 健康 問題 (ニカンスル格:健康)

また、281、282はニタイスル格でもよい。

「～の」という形の形容詞(ナノ形容詞のダ列特殊連体形)にも同様にタグをつける。

(283) わずかの 謝礼 (ガ格:謝礼)

「形容詞語幹+の+名詞」にも同様にタグをつける。

(284) 平和 の国 (ガ格:国)

「名詞+名詞」「名詞+の+名詞」の場合は、ノ格などでタグを付与する。

(285) 極限の 状態 (修飾:極限)

「名詞+的(形容詞性名詞接尾辞)」は、「～的だ」で一語になるものと同様にタグをつける。

(286) 彼 的な 考え方だ (ガ格:考え方)

4.4 トイウ格

「(もらった) 事実」のような内容を表している表現にはトイウ格を付与する。

(287) 社長解任の 事実 は多くの人を驚かせた (トイウ格:解任)

(288) 安全/保障/上の理由 (トイウ格:上)
(「上」←ノ格:保障)

(289) 民主/主義 (トイウ格:民主)

(290) 増加/傾向 (トイウ格:増加)

(291) 週休/二日/制 (トイウ格:二日)
(「二日」←ノ格:週休)

(292) 積極 姿勢 (トイウ格:積極)
(※ 修飾でも可)

「~なるもの」のような表現にもトイウ格でタグをつける。

(293) 比較/文明学/なるものの輪郭も/明確に/なっている (トイウ格:文明学)

ノ格、トイウ格のどちらのタグになるかが文脈によって変わる場合がある。

(294) 旅行の プラン を具体的に考えた (ノ格:旅行)

(295) 旅行の プラン は残念ならなくなった (トイウ格:旅行)

(296) 離党しなければならないのか/理由が/理解できない (ノ格:離党しなければならない)

(297) 風邪をひいた 理由 で会議を休んだ (トイウ格:ひいた)

4.5 時間

時間は、基本的に時間格でタグを付与する。ただし、既出の時間の一部を表す表現などにはノ格でタグを付与する (cf. (203), (204), (205))。

(298) 三時の おやつ (時間:三時)

(299) 新年の あいさつ (時間:新年)

(300) 当面の 課題 (時間:当面)

(301) 過去/3回 (時間:過去)

(302) 九二年の前回 大会 (時間:九十二年, 前回 [and])

(303) 正月の/増発/便 (時間:正月)
(「増発」← 時間:正月, ノ格:便)
(※ 「正月」の係り先は「便」, 「増発」は動作的サ変名詞と解釈)

「～からの」、「～までの」などは、用言の場合と同様にカラ格、マデ格でタグをつける。

(304) 三時からの 会議 (カラ格:三時)

(305) 昨年/七月/五日以前の/旧/運賃 (マデ格:五日, 修飾:旧)

(306) 戦勝/五十/周年 (カラ格:戦勝)

次の例は当面タグをつけないことにする。

(307) 戦後 五十年 を契機に実現させたい

4.6 ほかの格

名詞と解釈したときも、ノ格、トイウ格以外を使用してよい。

(308) 職人への 道 はとても険しい (へ格:職人)

(309) 水銀による 影響 (ニヨッテ格:水銀)

(310) 失言/騒動 (ニヨッテ格:失言)

(311) 流域における 影響 (ニオイテ格:流域)

次の例はノ格、ニヨル格のどちらでもよい。

(312) 水銀の 影響 (ニヨッテ格:水銀 or ノ格:水銀)

5 共参照

5.1 =関係

5.1.1 =

ある表現が既に出現した表現に対して共参照している場合は、その表現に対して「=」という関係でタグを付与する。

(313) 太郎は太っている。彼はいつも何か食べている。(=:太郎)

(314) 今日の新聞が机の上にあった。それは花子が読んだものだ。(=:新聞)

(315) 奈緒美が来た。あの 子はいつも長居する。(=:奈緒美)

(※「あの」にはタグをつけない)

(316) マイクロソフト社は 同社が販売しているプログラムを…(=:マイクロソフト社)

(317) 自分を天才だと健は思った。(=:健)

※ 同格関係にあるなど、2つの表現が構文的に同一の対象を指していると考えられる場合は共参照(構文)を付与する(詳しくは5.1.2節)。

次の例では、まったく同じ表現であるが、同じものを指しているので共参照のタグをつける。

(318) 日本は財政面で国連に貢献している。日本の常任理事国入りは…(=:日本)

※ 政府、自治体など主体を表す地名と、純粹に場所を表す地名は=でタグをつけてよい。

※ 「ドル」など単位に関しては、共参照タグをつけない。

※ 「=」でタグ付けすれば、前に一度つけたタグを再度つける必要はない。

次の例では、具体物(「環境」「人口」「食料」とその係り先の「広範に」は品詞がずれているので=を付与しない。

(319) 地球規模の環境、人口、食料など広範に国連の果たさなければならない役割は大きい

ある表現が著者を指す場合には「=:著者」という関係を付与する。同様に読み手を指す場合には「=:読者」という関係を付与する。

(320) 僕はパパが自分に宛てたメッセージを一気に読んだ。(=:著者)

(321) 新撰組を愛してやまない管理人が経営しています。(=:著者)

(322) フェンシング部は週2・3回地方の様々なフェンシングクラブに参加し、…(=:著者)

(323) 本日私が紹介するのは…です。当社では、安全な商品を(=:著者)
(「当社」←≡:私)
(「私」と「当社」は所属関係にあるので「≡」を付与する)

(324) あなたにあった素敵なお眼鏡を見つけてください。(=:読者)

(325) お客様それぞれの目的やご予算、日程に合わせて、…(=:読者)

(326) 本日みなさまに紹介するのは、…多くのお客様…この商品に興味のある方は(=:読者)
(「方」←≡:みなさま)

著者、読者を表す表現が複数出現した場合には、最初に出現したものに「=:著者」「=:読者」を付与し、以降のものは「≡:著者」「≡:読者」を付与する。

(327) 当社では様々な商品を皆様に販売しています。…私もこれらの商品を実際に…(=:著者)
(「皆様」←=:読者)
(「私」←≡:当社)
(「私」←≡:著者)

(328) 今後はこちらで意見を提言して頂ければ…管理人様には定期的にこちらを閲覧し、
(「提言して」←ガ格:読者,ヲ格:意見)
(「管理人様」←≡:読者)
(「提言して」のガ格の人物と「管理人様」は別の人物であるため≡とする)

5.1.2 =構文

構文的に同一の対象を指していると考えられる2つの表現があり、それらが同じ属性(「人」、「組織」など)である場合は共参照(構文)というタグを付与する。この際、ガ格など(cf. 417)他にも付与すべきタグがある場合はそれらのタグも付与する。(2008年12月追加)

(329) 米大統領である ブッシュ。(=(構文):大統領)

(330) 米大統領となった ブッシュ。(=(構文):大統領)

(331) 米大統領は ブッシュだ。(ガ格:大統領, =(構文):大統領)

(332) ブッシュは 米大統領だ。(ガ格:ブッシュ, =(構文):ブッシュ)

「肩書+固有表現」などの同格的な表現に対しても共参照(構文)タグを付与する。
(※ 修飾格も付与する。cf. (271)~(276))

(333) 首相、/小泉が(修飾:首相, =(構文):首相)

(334) チームの/切り札/F B/森嶋(修飾:F B, =(構文):F B)
(「F B」← 修飾:切り札, =(構文):切り札)

ノ格の同格的表現も同様に扱う。

(335) 会社員の 鈴木さん(修飾:会社員, =(構文):会社員)

同一文になくても、省略などを補うことにより、構文的に同一の対象を指していると考えられる場合は、共参照(構文)タグを付与する

(336) 湯川秀樹。日本初のノーベル賞受賞者です。(ガ格:秀樹, =(構文):秀樹)

※ 以下では簡単のため「=構文」以外のタグを省略しているが、特に断りが無い限り、他のタグと重複して付与するものとする。

過去の事象であっても、その時点で同一の対象を指していたと考えられる場合は、共参照(構文)のタグをつける。未来のことや予想・希望など、実現・決定していない場合は共参照(構文)のタグはつけない。

(337) 第一次世界大戦中の米大統領であった ウィルソン。(=(構文):大統領)

(338) 米大統領となる オバマ。

(339) 次期米大統領は オバマ だと思う。

(340) 会場は 食堂 です。(=(構文):会場)

(341) 会場は食堂が良いです。
(※現状では、「会場は食堂」だと決まってはいない。)

- (342) 会場は 食堂 のままで良いです。(=(構文):会場)
(※現状では、「会場は食堂」だと考えられる。)

形式名詞や疑問詞であっても、表している内容が同じ属性であると考えられる場合は、共参照 (構文) タグを付与する。

- (343) 起きたのは 早朝 だ。(=(構文):の)

- (344) 誰が 責任者 ですか。(=(構文):誰)
(※現状では、「誰」が指す対象は不明だが疑問詞の指す対象が「責任者」であることは確定していると考え、共参照 (構文) タグを付与する。)

ただし、疑問詞を伴わない通常の疑問文の場合は共参照 (構文) タグを付与しない。

- (345) 彼が 責任者 ですか。

隠喩の関係にある場合は共参照 (構文) タグを付与し、直喩である場合は付与しない。

- (346) 彼は 鬼 だ。(=(構文):彼)

- (347) 彼は 太陽 だ。(=(構文):彼)

- (348) 彼は 鬼 のような性格だ。

次の例では、文末に「~のようだ」ではなく「~が良い」が省略されていると考えられ、隠喩ではないので共参照 (構文) タグは付けない。

- (349) 春は あけぼの。

- (350) 夏は 夜。

数量が関係する場合も共参照 (構文) タグを付与する (数量に関する例のみ他のタグも表示する)。
(※ 数量のタグ付けは (267)~(270) も参照)

- (351) 女子高生が 10人。(ガ:生, =(構文):生)

- (352) 女子高生ら 10人。(=(構文):生ら)
(※従来、インスタンスと解釈し、「=」を付与していたが「=(構文)」に変更。)

- (353) 女子高生 10人。(ノ:生, =(構文):生)
(※クラスと解釈し、「ノ格」も付与。)

- (354) 10人が女子高 生。(ガ:10人, ノ:高, =(構文):10人)

- (355) 10人の女子高 生。(修飾:10人, ノ:高, =(構文):10人)

次の例では、「工藤」、「刺身」にそれぞれ共参照、共参照 (構文) の2つのタグを付与する。

- (356) 私の名前は 工藤 です。(=:私, =(構文):名前)
(「名前」には“=:私”というタグは付与しない。)

- (357) 物体の正体は 刺身。(=:物体, =(構文):正体)
(「正体」には“=:物体”というタグは付与しない。)

5.1.3 =役職

「人名+役職」のような表現には共参照(役職)タグを付与する。(2008年12月追加)

(358) クリントン/大統領 (=役職:クリントン) ※ cf. (271), (272)

※ 後から指すときは、それから見て近い方(後側)の表現を用いる。上の例の場合は、「クリントン」ではなく「大統領」を用いる。

次の例では、後続している表現は“役職”ではないが、“役職”という情報を付与する。

(359) 秋篠宮/ご夫妻 (=役職:秋篠宮)

次の例では「親方」に対し、共参照(構文)、共参照(役職)の2つのタグを付与する。

(360) 師匠の/友綱/親方 (=構文:師匠, =(役職)友綱)

5.2 ≒関係

同じような表現が用いられるが、指している事象が異なるものにタグを付与する場合、「=」ではなく「≒」、「ガ、ヲ、ニ、…」ではなく「ガ≒、ヲ≒、ニ≒、…」格を用いる。総称・非総称名詞間、上位・下位関係など何らかの関係をもつ名詞間に与える。ただし、「(車の)ハンドル」のような物理的な全体部分関係をもつ名詞間には「ノ格」を与える(4.1節参照)。

(361) ロシアの民営化政策は…九二年に始まった。民営化 証券を使って株式を取得する… (≒:民営化)
(「証券」← トイウ格:民営化)

(362) 九四年の/年間/出生/率は/…を/記録。/万単位で/前年を/上回ったのは、/七三年以来。
(ガ≒格:率)

(363) 「観光客が寄り付かない」などの苦情もある(トイウ格:寄り付かない)など)

(364) 大学では、東大が… (≒:大学)

(365) 政党別では、自民党が… (≒:政党)

(366) 新議会の上院は、共和党五十三、民主党四十七… (≒:議会)
(※ 直接ノ格で係っていても、基準に従い、ノ格ではなく≒でタグ付けする)

(367) 大学教官では、教授が…、助教授が… (≒:教官)
(「助教授」← ≒:教官)

(368) 車両には、自動車、原動機付自転車、軽車両およびトロリーバスがある (≒:車両)
(「自転車」「(軽)車両」「トロリーバス」← ≒:車両)

(369) イタリア料理に欠かせないのが、スパゲティだ (≒:料理)

(370) チェコ、(P)ハンガリーなど東欧四カ国がNATOに加入していない (≒:チェコ, ハンガリー, ノ格:東欧)

まったく異なる対象であっても、同じ表現で表される要素間は「≒」でタグを付ける。

(371) 太郎の車は… 花子の 車 は… (≒:車)

(372) 国会/議員に/次いで、県議会/議員にも/呼びかける (≒:議員)

(373) 山内/主将は/… 平川/主将は/… (≒:主将)

(374) 感染/者の/うち/生存/者は… (≒:(感染)者)

ただし、単位的なものは対象外とする。

(375) 3/カップの/うち/1/カップは/…

(※ 同じ対象を指す「(1)カップ」があれば、それには「=」でタグ付けする)

※ 「=」と「≒」の両方をタグ付けできるなら、遠くても「=」の方を付与する。

5.3 共参照に関する注意点

用言に対する共参照タグ

用言に対しても共参照タグを付与する。指している事象がまったく同じであれば=で、事象が異なるが何らかの関係をもっていれば≒でタグをつける。

(376) 太郎は花子を殺した。… 太郎が花子を 殺した ことは… (=:殺した, ガ格:太郎, ヲ格:花子)

(※ ガ格とヲ格は同じなので、これらのタグは省略可能)

(377) 太郎は花子を殺した。… 実際は 殴り殺した のであるが、…(=:殺した)

(378) 太郎は花子を殺した。… 花子が太郎に 殺された … (=:殺した, ガ格:花子, ニ格:太郎)

(※ 受身であるが、同じ事象を指しているので=でタグをつける, ガ格とヲ格のタグはつけるのが望ましい)

(379) 太郎は花子を殺した。… 太郎は花子を 殺していない と言っており、…(=:殺した)

(※ 否定、推定などは=でタグをつける)

(380) 太郎は花子を殺した。… 太郎は次郎も 殺しており、…(≒:殺した, ガ格:太郎, ヲ格:次郎)

(※ 事象が異なるので≒でタグをつける)

表記が同じでも意味がまったく異なるならばタグを付与しない。

(381) …が話題になっている。… 部課長に なれない。

(※ この2つの「なる」は、まったく意味が違い、関係もないので、共参照タグをつけない)

対比に対する共参照タグ

対比している用言間に≒タグを付与する。

(382) 太郎がスプーンでアイスを食べ、花子は箸で 食べる (≒:食べ, ガ格:花子, ヲ格:アイス, デ格:箸)

(383) ラーメンはおいしいが、ギョウザは おいしくない (≡:おいしい, ガ格:ギョウザ)

(384) ラーメンはおいしいが、ギョウザは まずい (≡:おいしい, ガ格:ギョウザ)

※ 「ラーメン」に「≡:ギョウザ」などは付けないが、次の例のように表記が同じで対比関係をもっている場合は≡を付ける。

(385) このラーメンはおいしいが、あのラーメンは まずい (≡:おいしい, ガ格:(あの) ラーメン)
(「(あの) ラーメン」 ← ≡:(この) ラーメン)

複数を表す表現

複数を表す表現とその構成要素である単数を表す表現の関係は≡タグを付与する。

(386) 学校、警察を含め関係 機関 が協力する必要がある (≡:学校, 警察)

(387) 自民党と民主党が対立しているように、各 政党 で意見が割れている (≡:自民党, 民主党)

≡でつけた要素全部で、複数を表す表現の指示対象に一致する場合は記号 SE を記述する。

(388) 太郎と花子が競争しており、両者 とも譲らない (≡:太郎, 花子, SE)

(389) 自民党と民主党が2大 政党 となっている (≡:自民党, 民主党, SE)

(390) 石川、林、堀内が集まった。彼女ら が作業している (≡:石川, 林, 堀内, SE)

(391) 石川、(P)/林、(P)/堀内の/3人 が/作業した (≡:石川, 林, 堀内, SE)

(「作業」 ← ガ格:3人)

(※ 「3人」は「石川」, 「林」, 「堀内」だけなのでSEとなる)

構成要素が、複数を表す表現より後の文に出現するときは、単に≡でタグ付けする。

(392) 作業者は3人。石川、林、堀内 だ。(ガ格:3人, ≡:3人)

(「石川」「林」 ← ≡:3人)

※ SEになる≡の要素群以外に、別の≡関係があってもタグを付与しない。

6 その他注意点

● 前文

前方の複数の内容をさす場合には、「前文」というタグを与える。

(393) …。以上の 内容 から… (トイウ格:前文)

前方の特定の文の内容をうける場合は、その文末のタグ単位を指すようにタグ付けする。

(394) …サミットを開催する。政府筋が三十一日、明らかにした。(ガ格:政府筋, ヲ格:開催する)

- 後文

後文の内容をさす場合は「後文」というタグを与える。

(395) 首相は次の 意見 を述べた。… (トイウ格:後文)

(※「次の」にはタグをつけない、トイウ格については4節参照)

(396) 会見の要旨は次の 通り。当面…課題がある。… (=:後文, =(構文):要旨, CO)

(※「次の」にはタグをつけない、「要旨」に対して「トイウ格:通り」を付与するのが望ましい。(2012年6月変更) = については5節参照)

※ 前文、後文タグの関係は、タグを与える対象によって異なる。

関係	対象
=	通り, (次の) よう (に)
トイウ格	意見, 事実
ノ格	ため

- 内容を表す表現

内容を表す表現の格は、用言と動作的なサ変名詞に対してはト格、動作的ではないサ変名詞と関係名詞に対してはトイウ格とする。

まとめると次のようになる。

	ガ格	内容節の格
用言, 動作的サ変名詞	ガ格	ト格
非動作的サ変名詞	ガ格	トイウ格
関係名詞	-	トイウ格

- 用言、関係名詞のどちらにも解釈できる場合

動作的であるかどうかを考えて、用言、関係名詞のどちらの解釈にするかを決定する。

どちらか判断できない場合は両方の解釈でタグを付け、その旨をメモ欄に記述する。

3.7.6 節のサ変名詞のほとんどは用言と解釈している。

- ト格と並列の区別, タグの AND/OR

用言が「ト格」をとるときはト格にする。

(397) 花子と太郎が 結婚した (ガ格:太郎, ト格:花子)

対象が並列である場合は、ひとつの格に両方を記述する。ツールは、「and」でタグを付与するモードにする。

(398) 太郎と花子が学校から 帰った (ガ格:太郎, 花子 [and])

(※構文:「太郎」と「花子」がP(並列))

(399) 花子が太郎と学校から 帰った (ガ格:太郎, 花子 [and])

(400) 太郎が花子と次郎とともに学校から 帰った (ガ格:太郎, 花子, 次郎 [and])

(401) ロシア軍は 激しい 空爆と砲撃を加えた (ガ格:空爆, 砲撃 [and])

一方、「A か B」のように意味的に or である場合は「or」でタグを付与する。

(402) 私は田園調布か国立に 住みたい (ガ格:私, ニ格:田園調布, 国立 [or])

(403) 11万人から12万人が 働いている (ガ格:11万人, 12万人 [or])

(404) このプランは一月三日ー三十一日 出発 で… (ガ格:プラン, 時間格:三日, 三十一日 [or])

次の例の「撤廃する」の主格は、「高知県」、「橋本知事」、「不特定:人」のいずれにもとれるので、それらをすべてタグとして記述し、「?」を付与する。

(405) 高知県の橋本知事は…国籍条項を 撤廃する 方針を明らかにした (ガ格:高知県, 橋本知事, 不特定:人 [?], ヲ格:条項, 外の関係:方針)

- 連体修飾の外的関係に準ずる表現

次の例では、「必要と」は「いう」に係り、「いう」は「ものだ」に係る。「必要」に対して「もの」は外的関係的であるが、連体修飾の関係ではないので、この間のタグはつけない。

(406) 意見は、市民の側に立った平和と民主主義を担う政党が 必要 というものだ (ガ格:政党)

(「ものだ」 ← ガ格:意見, トイウ格:必要)

トイウ格に対する付与例は (363) 参照。

次の表現は上の例とはまったく異なり、「ものだ」自体には意味がないので、これにはタグをつけない。

(407) 学生は勉強するものだ (ME)

- 「～ら」「～など」のような複数を表す表現

「～ら」「～など」のような複数を表す表現に対するタグは以下のように付与する。

(408) 太郎らが学校から 帰った (ガ格:太郎ら, カラ格:学校)

(409) 太郎、次郎らが学校から 帰った (ガ格:太郎, 次郎ら [and], カラ格:学校)

(410) 太郎が次郎と学校から 帰った (ガ格:太郎, 次郎 [and], カラ格:学校)

(411) 太郎が次郎、花子らと学校から 帰った (ガ格:太郎, 次郎, 花子ら [and])

- 接辞を含む表現

接尾辞をタグに含めるかどうかは、その文脈における妥当性を考慮して決定する。基本的には、「側, 全体, そのもの, 自身, 自体」などはタグに含めない。

例: ロシア 側, 欧州 全体, ロシア など, ロシア だけ, 彼ら, 官邸 前

タグを付与する対象に接辞が含まれる場合は、基本的に接辞は考慮しない。ただし、態が変わる接頭辞「被」、品詞(細分類)が変わる接尾辞「化」(e.g. 「国際化」)などは考慮する。

(412) 被支配/者 (ガ格:者)

(※ 「支配される」と考えてタグをつける)

- この, その, あの, 同

(413) 部屋のすみに彼の机があります。その 机 は… (=:机)

(414) 部屋のすみに彼の机があります。その 引き出し は… (ノ格:机)

(415) 装甲/車/部隊が/大統領/官邸/付近に/進出。同/官邸前 では/… (=:官邸)

(※ タグを付与する対象は「官邸前では」であるが、「前」は無視し「官邸」とみなしてタグをつける)

(416) 94年/3月、/…。同/4月、/… (ノ格:94年)

- 判定詞関連

名詞+判定詞にガ格を与える。

(417) 石川さんは 妊婦だ (ガ格:石川, =(構文):石川)

「～のは」など、連体修飾されている形式名詞が、名詞+判定詞に係る場合は以下のようにタグをつける。形式名詞は連体修飾節の用言の内の関係となる。

(418) 私が/飲みたい/のは、/アイスコーヒーだ。(ガ格:私, ヲ格:の)

(「アイスコーヒーだ」←ガ格:の, =(構文):の)

(419) 彼が/行った/ところは、/カナリア諸島だ。(ガ格:彼, ニ格:ところ)

(「カナリア諸島だ」←ガ格:ところ, =(構文):ところ)

(420) 我々が/集合したのは十一時三十分だった(ガ格:我々, 時間:の)

(「三十分だった」←ガ格:の, =(構文):の)

判定詞、動詞(「する」の省略)が曖昧なときは動詞として解釈する。

(421) 太郎がその案に 賛成 (ガ格:太郎, ニ格:案, PO:する)

動作的名詞が判定詞として使われている場合は、動作的名詞として解釈したタグをつけ、さらに、判定詞のガ格のタグを「判ガ格」として付与する。

(422) 画廊の/会社/登記は/都との/最初の/契約後だった(ガ格:画廊, ト格:都, 判ガ格:登記)

(423) 会談では、/規制/緩和の/推進が/主要/テーマと/なる/見通しだ(ガ格:不特定:人, ト格:なる, 判ガ格:不特定:状況)

ト格の格要素か、判定詞として使われている補文かの区別が曖昧な場合は、用言との関連性を考慮する。後の用言との関連性が弱ければ判定詞として解釈する。

(424) 仏戦争は我々の 義務 となった(ノ格:我々)

(※ 「なる」はト格をとり、その間には強い関連性があるのでト格と解釈する)

(425) 砂岩層は浅海の海底の砂層と考えられる (ノ格:海底)

(※ これは微妙なので、どちらの解釈も可)

(426) 大集団が値上げ反対とデモしている (ガ格:集団, ニ格:値上げ, CO)

(「デモ」← ガ格:集団, ト格:反対, 間接ト格)

(※ 「デモ」とト格の関連性があまり強くないので、判定詞と解釈する
「間接ト格」は例 (471), (472), (473) 参照)

- 名詞、副詞の区別

名詞、副詞の区別は行っていないが、作業者が修正したいと思う単語は修正する。

(427) みんなが学校から帰った。

(※ 品詞を副詞から名詞に修正)

- タグ単位の修正

タグ単位より小さい単位に係る場合は、タグ単位を分割し、係り受けを修正する。

(428) 彼は/二十歳で/渡/伯/した (ガ格:彼, デ格:二十歳, ニ格:伯)

(※ 「彼」、「二十歳で」が「渡」に係るように修正する,
※ 「した」へのタグは付与しない)

(429) 全/衆院/議員 (ノ格:衆院)

(※ 「全」が「議員」に係るように修正する)

※ 記事単位の修正は記事単位で一貫性があれば自由に行ってよい。

「大中型」「原水爆」など、タグ単位を分割するのが難しい場合は、分割せず、「大型」「中型」、「原爆」「水爆」などと≒関係のタグをつける (単語は「大中型」「原水爆」にするか、一語にする)。

- 固有表現関連

固有表現を構成する要素間のタグは基本的につけなくてよい。

(430) 毎日/芸術/賞

(431) 日本/レコード/大賞

(432) アジア・/太平洋/経済/協力/会議

固有表現を構成する単語の品詞は以下の基準に従って修正する。

－ 固有表現を構成する単語はそこに品詞とする。

(433) 東京 C/大学 n

(434) オリックス A・/レンタカー n

(435) 安田 J/火災 n

(436) オリエンタル j/劇場 n

- 固有表現の2回目の出現以降で、1回目を構成する一単語のみの短縮形で参照される場合は、その単語の品詞を固有表現自身の分類(人名, 地名, 組織名)とする。この場合、1回目の単語の品詞と違ってよい。

(437) 東京 C/大学 n が/… 東京 A は…

(438) 日本 C/代表 n が/… 日本 A は…

※ 「日本」、「フランス」など地名で政府、自治体を表す場合は、組織名にはせず地名にする。

- 意味的に省略されている要素を補う

意味的に省略されている要素は、NO という記号でメモ欄に記述する。

(439) 我社の製品は他社と 違う (ガ格:製品, ト格:他社, NO:ト格:製品)

「違う」のト格として、直接係っている「他社」をタグ付けするが、意味的には「他社の製品」であるので、メモ欄に「NO:ト格:製品」と記述する。

(440) 第一部の関西地区は視聴率が43.6%。第二部は 52.7% で、… (ガ格=:視聴率, ガ2格:第二部, NO:ガ2格:地区)

(「43.6%」← ガ格:視聴率, ガ2格:地区)

2文目のガ格は「第二部」(外の関係)ではなく、1文目の「視聴率」である。1文目の「視聴率」は「第一部の視聴率」、2文目の「視聴率は「第二部の視聴率」を表しているので、「=」を用いる。

(441) 工学部は人気がない。だが、京大は競争率が 高い。(ガ格:競争率, ガ2格:京大, NO:ガ2格:工学部)

2文目の意味を考えると、「京大は工学部が競争率が高い」となるので、1文目にある「工学部」が省略されていると考える。

- 動詞の省略

動詞が省略されている場合は、PO という記号を用いて、省略されている動詞をメモ欄に記述する。

(442) 山花氏は準備会発足を 提案。(ガ格:山花氏, ヲ格:発足, PO:する)

(443) アイスコーヒーが飲みたいと 石川さん。(ト格:飲みたい, PO:いう)

(444) 「税金でパーティを どうぞ」と書いてある。(ガ格:不特定:人, ヲ格:パーティ, デ格:税金, PO:開く)

※ 判定詞の省略にはCOを記述する。(194), (426), (468) 参照。

- 格要素に複数の助詞が付属している場合

用言と関係をもっている範囲を考え、それ以外の部分から格を決める。

(445) 名古屋までは東京からより京都からの方が近い (ガ格:方, ヨリ格:東京, ガ2格:名古屋まで)

(「方」←カラ格:京都)

(※ 意味的には、「“名古屋まで”は“東京から”より近い」となるため。)

(446) 自民からは反対意見が拳がった。(ガ格:意見, カラ格:自民)

(※ 意味的にも、「“自民”から(は)拳がった」となるため。)

- 部分並列 (構文:I マーク)

I マークで表される部分並列において、述語がない部分は、その部分の最後の要素にタグをつける。どの動詞が省略されているかは明白なので、PO は付与しなくてよい。

(447) 花子は紅茶を、太郎はコーヒーを飲んだ。(ガ格:太郎, ヲ格:コーヒー)

(「紅茶を」←ガ格:花子, ヲ格:紅茶)

- 数量関係

「3/人」, 「3/試合」などの数詞+接尾辞, 数詞+名詞にはタグをつけない。

(448) 3/研究/者 (「研究」←ガ格:者)

数量に関係する表現を以下に挙げる。

(449) 2杯のコーヒーを飲む (修飾:2杯)

(450) コーヒーを2杯飲む (ヲ格:コーヒー)

(※無格のタグはつけない)

(451) 2杯飲む (ヲ格:コーヒー)

(※「2杯」は「飲む」に係るので「コーヒー」に対する「2杯」のタグはつけない)

(452) 2、3杯と飲む (ヲ格:コーヒー)

(※「2、3杯と」の部分は修飾的ととり、「飲む」に対してタグをつけない)

アンケート結果など「～%」という表現には次のようにタグをつける。

(453) 「悪影響が出る」が四一%、「出ない」が五二%と逆転している (ガ格:出る)

(「五二%」←ガ格:出ない)

(454) 「職業を続ける」一二%、「職業につかない」九%の順だった (ガ格:続ける)

(「九%」←ガ格:つかない)

(455) 賛成五十%、反対四四%に二分された (ガ格:賛成)

(「四四%」←ガ格:反対, 「賛成」←ガ格:五十%, 「反対」←ガ格:四四%)

(456) 「政治勢力の三極化が進んでいる」の21%を上回った (ガ格:進んでいる)

- 「間」

「間」を含む表現には以下のようにタグを付与する。

(457) 妻との間 (ト格:妻)

(458) 東と/西との間 (ト格:東, ノ格:西)

(459) 東と/西の間 (ト格:東, ノ格:西)

(460) 東/西/間を/比較 (ト格:東, ノ格:西)
(「比較」← ヲ格:間)

● 接頭辞, 接尾辞へのタグ付け

タグ単位が分かれている接頭辞、接尾辞にもタグを付与できるなら付与する。

(461) 高/収入の/堀内さん (ガ格:収入, ガ2格:堀内)
(※「高」を「高い」ととる)

(462) 小泉/首相は/… 前/首相は/… (ノ格:(小泉) 首相)

(463) 前/アメリカ/大統領/クリントン (「前」には付与するタグがない)
(「大統領」← ノ格:アメリカ, 修飾:前)

● 動作的名詞

動作的名詞は動詞と解釈してタグを付与する。品詞が動詞になっている場合は名詞に修正する。

(464) 飲み会 (デ格:会)

(465) ロシア/軍の/戦い/方 (ガ格:軍, デ格:方)

(466) 宴会 承り 係 (ガ格:係, ヲ格:宴会)

(467) ヨモギ 入り の皮 (ガ格:ヨモギ, ニ格:皮)

(468) 交通/事故/死亡/者は/… 近畿は/前年/比/21人/増 (ト格:前年)
(「増」← ガ格:者, デ格:比, ガ2格:近畿, CO)

● 「よう(に)」など補文を受ける表現

「よう(に)」ではなく、その直前の表現をタグとし、格はヲ格, ト格を判断する。

(469) 先生が/論文を/書く/ように/言う (ガ格:先生, ニ格:不特定:人, ト格:書く)

(470) 支部が/実態を/調査する/よう/要請する (ガ格:支部, ニ格:不特定:人, ヲ格:調査する)

● 「〜と」などの補文を、補文を受けない用言で受けている場合

メモ欄に「間接ト格」と記述し、ト格でタグをつける。「〜と」と用言があまり関係ない場合はタグをつけない。

(471) 「頑張りたい」と威勢だけは いい (ガ格:威勢, ト格:頑張りたい, 間接ト格)

(472) 「もうだめだ」と 苦しむ (ト格:だめだ, 間接ト格)

(473) 「もうだめだ」と 去っていく (ト格:だめだ, 間接ト格)

- 「なし」タグ

あまり必須的でない(そこまで付けなくてもよい)タグには、「なし」というタグを?で付加する。

(474) そういう方向を目指して 努力しなければならない (ガ格:社会党, ニ格:方向, なし [?])

(475) 米国の主張は性急な要求が目立ち、批判が 強かった(批判:ガ格, ニ格:要求, 主張, なし [?])

- 普通名詞+「する」関連

普通名詞に「する」が後続している場合は、(428)と同様にタグを付与する。

(476) 4人が/ショック/死/した (ガ格:4人, デ格:ショック)

(※ 「した」にはタグを付与しない)

ただし、「Aをする」と表現できる場合には、「する」にタグを付与する。

(477) お茶/する (ヲ格:お茶)

副詞+「する」の場合は「する」にタグをつける。

(478) リビングで/のびのび/する (デ格:リビング)

数詞+助数辞+「する」の場合は数詞と助数辞+「する」でそれぞれ1タグ単位とし、これに対してタグを付与する。

(479) 山荘に/二/泊する (ニ格:山荘)

- 複合動詞複合動詞は1タグ単位とする。(488)や下記の例。

(480) システムを/置き換える (ヲ格:システム)

(481) 砂糖を/使い切る (ヲ格:砂糖)

(482) 食材を/メモに/書き並べた (ヲ格:食材, ニ格:メモ)

ポーズを入れられる場合には、複合動詞ではないとして、別々のタグ単位とする。

(483) 野菜を/包丁を/使い/切る

(「使い」←ヲ格:包丁)

(「切る」←ヲ格:野菜)

(484) 詩を/タイルに/書き/並べた/床

(「書き」←ヲ格:詩, ニ格:タイル)

(「並べた」←ヲ格:タイル, ニ格:床)

7 未解決の問題

- タグ単位を分割しないとタグを正確に付与できない場合
とりあえず、タグ単位は分割せずに、文字列編集でタグの範囲を修正する。

(485) コルジャコフ/大統領/警備/局長 (ガ格:局, ヲ格:大統領)
(※ 「局長」を選択し、文字列編集で「長」を消す)

8 タグ付け例

(486) 東京/空襲の/記念/館・/塔を/作りたい。
靖国/神社や/(P) 千鳥が淵・/戦没/者/ 墓苑など/軍人さん/のは/あるが、/一般/市民/の
は/ない。

※ 「のは」が助詞や助動詞になっていれば、形式名詞に修正しタグ単位を独立させる。

- (軍人さん) の ← ノ?格:軍人, ≡:館, 塔, 神社, 墓苑
- (市民) の ← ノ?格:市民, ≡:館, 塔, SE
※ 「≡:(軍人さん)の」は、「館, 塔」の SE を優先するため付与しない。
- ない ← ≡:ある

(487) 原油の/輸出/制限の/撤廃/問題。

- 輸出 ← ガ格:ロシア, ヲ格:原油, 外の関係:制限
- 制限 ← ガ格:ロシア, ヲ格:輸出
※ 「ノ格:輸出」は必要ない。

(488) 私は/鳥取県へ/移り住みたい。

- 移り住みたい ← ガ格:私, ヘ格:鳥取県

(489) 新築/なった/図書館は/しやれた/デザインだが、/中身まで/一新と/いうわけにはいかなかったようだ。

- なった ← ガ格:図書館, ニ格:新築
- 一新 ← ガ格:図書館, ヲ格:中身
- いうわけにはいかなかったようだ ← ガ格:不特定:状況, ト格:一新

(490) 編集は、/赤沢史朗、/栗屋憲太郎/両氏と/立命館/百年/史/編纂/室。

- 編集 ← ガ格:両氏, 室 [and], ヲ格:下巻
- 両氏 ← ≡:赤沢史朗, 栗屋憲太郎 [and], SE
- 史 ← 時間:百年, ノ格:立命館
- 編纂 ← ガ格:室, ヲ格:史
- 室 ← ガ格:編集, CO

(491) 交付金は、/国民/一人当たり/二百五十円、(P)/総額/三百九億円。

- 一人当たり ← ノ格:国民
- 二百五十円 ← ガ格:交付金, 修飾:一人当たり, CO
- 三百九億円 ← ガ格:交付金, =:総額, CO

A 品詞

インターフェースの係り受け構造表示画面では、各語の品詞は以下の1文字の記号で表示されている。

特殊	*	普通名詞	n	接続詞	c
動詞	v	人名	J	連体詞	m
形容詞	j	地名	C	感動詞	!
判定詞	c	組織名	A	接頭辞	p
助動詞	x	固有名詞	N	接尾辞	s
		指示詞	d	未定義語	?
		副詞	a		
		助詞	p		

B 格の一覧

ガ, ヲ, ニ, ト, デ, カラ, ヨリ, ヘ, マデ, マデニ, ノ, ノ?, 修飾, 時間, 外の関係, ガ2, トイウ, =

複合辞の格

トシテ	～として
ニアワセテ	～にあわせ(て)
ニオイテ	～において
ニカギッテ	～にかぎって, ～にかぎり
ニカギラズ	～にかぎらず
ニカランデ	～にからんで, ～にからみ
ニカワッテ	～に代わって, ～に代わり
ニクラベテ	～に比べ(て)
ニクワエテ	～に加え(て)
ニシテ	～にして
ニソッテ	～にそって, ～にそい
ニタイシテ	～に対し(て)
ニツイテ	～について
ニツヅイテ	～に続いて, ～に続き
ニトッテ	～にとって
ニトモナッテ	～に伴って, ～に伴い
ニナランデ	～に並んで
ニムケテ	～にむけ(て)
ニモトヅイテ	～に基づいて, ～に基づき
ニヨッテ	～によって, ～により
ニヨラズ	～によらず
ヲツウジテ	～を通じ(て), ～を通し(て)
ヲノゾイテ	～を除いて, ～を除き
ヲフクメテ	～を含めて, ～を含み
ヲメグッテ	～をめぐる, ～をめぐり

C 修飾語の例

かわりに ごとに ごまかしに さすがに したり顔に しまいに じぎじきに その上に
たびに ために ほかに めどに もろに モロに 慰め顔に 一つおきに 一つ置きに 一心に
引き替えに 間に合わせに 間接に 気晴らしに 記念に 見た目にままた 現実に 個々に
個別に 故意に 交替に 公に 公式に 向けに 仕舞いに 死にもの狂いに 至急に
手当たり次第に 絶対に 全体に 相互に 他に 代りに 代わりに 大量に 単独に
知らず知らずに 直々に 直直に 天然に 内々に 二重に 年代順に 背中合わせに 倍に
比較的 に 物知り顔に 文字どおりに 文字通りに 並みに 放射状に 無期限に 無条件に
余分に 流石に 場合に

あおりで うえで うわべで おかげで お手盛りで きっかけで したり顔で せいで
そのままで つきっきりで ないしょで ひとりで ままで みんなで 意味で 一心で 一方で
飲み込み顔で 陰で 勧めで 共同で 協力で 原因で 最悪で 最高で 最小で 最大で 最低で
死にもの狂いで 自分で 手助けで 手探りで 助けて 少して 推定で 前向きの姿勢で
全力で 単独で 途中で 独力で 内緒で 内証で 二つ返事で 抜きで 付きっきりで
別で 無言で 無条件で 理由で 力づくで ノンストップで

着々と ゆっくりと びっしりと たっぷりと じっくりと 一段と はっきりと 自然と
生き生きと 高々と 多少と ともどもと がっぷりと

D 独立したタグ単位となる接頭辞

現 前 元 故 全 猛 高 低 超 新 旧 準 再 真 大 小 両 本 今 来 最 他 初 副 名 昨 毎 長
中 短

E 独立したタグ単位となる接尾辞

率 通り どり方 が た か た 型 形 用 製 家 者 数 費 入 り い り あ け 上 じ ょ う 作 り づ
くり ずみ 無し なし 増 減 前 中 後

F メモの記号

- ME モダリティ表現
- ID イディオム
- AG 受身・使役の動作主体
- PO 動詞の省略
- CO 判定詞の省略
- NO 名詞の省略
- SE ㄷの要素すべてで=となる